

多様な働き方や新たな企業立地の検証に向け、
**東急株式会社と連携し、
郊外部に働く場を創出します**

～青葉台郵便局の空き区画を活用～



横浜市と東急株式会社は、平成24年からまちづくりの包括協定を締結し、モデル地区「たまプラーザ駅北側地区」を中心に、東急田園都市線沿線エリアにおける郊外住宅地再生の取組「次世代郊外まちづくり」を進めています。

このたび、この一環として東急株式会社と連携し、コロナ禍による多様な働き方の急速な普及や職住近接ニーズの高まりなど、社会の変化を捉えた「働く場」を青葉台郵便局の空き区画（3階）を活用して創出します。また、東急株式会社が同じ建物内に整備する地域交流拠点（2階）と連携し、郊外住宅地における「住む」、「働く・活動する」が融合した新たなライフスタイルの実現にも取り組みます。

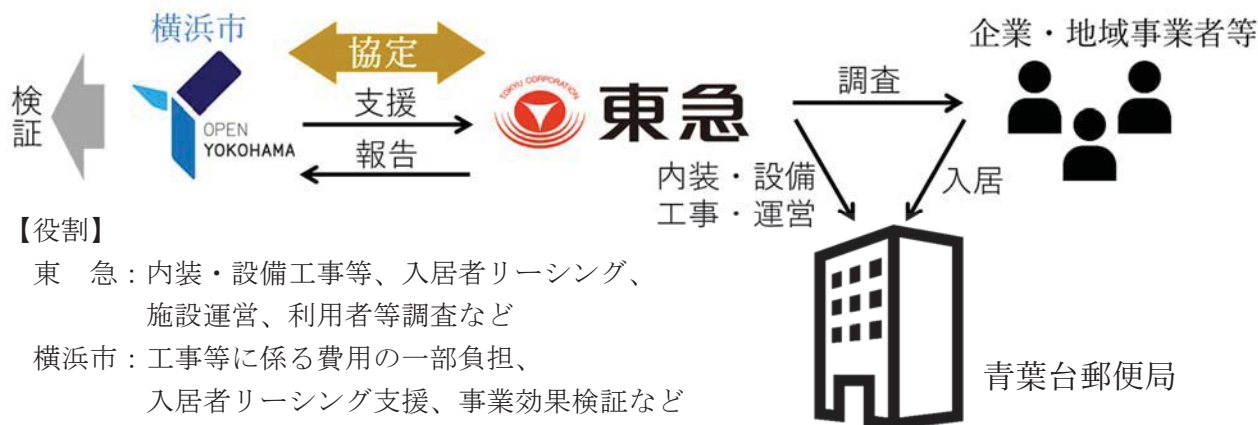
1. 青葉台郵便局における「働く場創出事業」の概要

3階の小規模オフィスにおいて、郊外部でのオフィスビジネスの実現性や企業の立地ニーズなどを検証し、今後のビジネス機能の立地誘導策の検討を行います。

- 実施主体：東急株式会社
- 実施場所：青葉台郵便局（横浜市青葉区青葉台1丁目13-1）
- 施設概要：【2階】地域交流拠点：ブックラウンジ・ワークショップスペース・ワークラウンジ
【3階】働く場：小規模オフィス（計10区画（445㎡））
- 開業予定：2021年4月上旬

※ 詳細は別紙をご確認ください

2. 「働く場創出事業」のスキーム



お問合せ先

【郊外部における働く場の創出事業に関すること】 経済局 企業誘致・立地課長 竹井 康之 Tel 045-671-4085
【次世代郊外まちづくりの推進に関すること】 建築局 住宅再生課長 加藤 忠義 Tel 045-671-4543

*本件は、横浜経済記者クラブへも同時発表しています。

2020年12月11日

田園都市線沿線の新たな地域交流拠点「(仮称)青葉台郵便局プロジェクト」が4月上旬に開業

～田園都市線沿線の住宅地の自由で豊かな「働く場」を青葉台エリアに創出します！～

東急株式会社

今般、横浜市と東急株式会社(以下、東急)が取り組む「次世代郊外まちづくり」で目指すまちの姿「コミュニティ・リビング」(詳細別紙)の推進に向け、モデル地区「たまプラーザ駅北側地区」で得た知見やノウハウを活かし、「青葉台エリア」への展開を開始します。青葉台駅徒歩3分に位置する青葉台郵便局の空き区画を活用した地域交流拠点「(仮称)青葉台郵便局プロジェクト」(以下、本施設)を、2021年4月上旬に開業します。

横浜市と東急は、2012年4月に締結、2017年4月に更新した「次世代郊外まちづくりの推進に関する協定」に基づき、モデル地区を中心に、田園都市線沿線エリアの新しい働き方・暮らし方やコミュニティ形成の提案など、郊外住宅地の課題解決や新たな価値創造に取り組んでいます。

田園都市線沿線の住宅地は、「働く場」の不足や少子高齢化、コミュニティの希薄化などさまざまな課題を抱えています。特に、青葉台エリアでは、地域の中に図書館のように読書や作業ができる場や憩いの場・活動の場が少ないとの声が多く聞かれています。

本施設は、青葉台郵便局建物の2～3階をリノベーションするものです。

2階エリアは、テレワークなどで利用できるワークラウンジや、交流の場となるブックラウンジ、イベントやセミナーでの利用が可能なワークショップスペースで構成します。ワークショップスペースでは、青葉台エリアの郵便局や、商店街・大学などと連携し、地域活性化に貢献するワークショップやイベントなどを開催することで、地域の交流拠点を目指します。

3階エリアは、横浜市による「郊外部における働く場の創出事業」の拠点として位置付けた企業や地域の事業者向けの小規模オフィスとして運営し、横浜市と連携して持続可能な郊外住宅地のオフィスビジネスの検証を行います。

本施設では、コワーキングスペースや小規模オフィスの設置により「働く」機能を導入し、「住む」、「働く・活動する」が融合した自由で豊かな新しいライフスタイルの実現を推進します。

今後も、「次世代郊外まちづくり」で培ったノウハウを活かして、田園都市線沿線の郊外住宅地に活動を展開し、産学公民連携のもと、地域の課題の解決に取り組み、魅力・価値の創出につながるまちづくりを推進していきます。

なお、本施設開業に向けてのプレイベントとして、2020年12月から「働く」「子育て」をテーマに、地域の方々と青葉台の魅力を再発見するワークショップを計2回開催いたします。

詳細は別紙の通りです。



▲青葉台郵便局外観



▲2階ワークラウンジイメージ



▲2階ブックラウンジイメージ

以上

(参考)本日、この資料は国土交通記者会、国土交通省建設専門紙記者会、ときわクラブ、横浜経済記者クラブにお届けしています。

本リリースに関するお問い合わせ先

東急株式会社 社長室 広報グループ 報道担当

電話:03-3477-6086

【別紙】

1. 「(仮称)青葉台郵便局プロジェクト」の概要

- 所在地 横浜市青葉区青葉台1-13-1
- 営業面積 1,289.20㎡(389.98坪)
- 構造・規模 鉄筋コンクリート造4階建
- 開業 2021年4月上旬
- 設計・監理 株式会社東急Re・デザイン
- 施工 未定
- 運営管理 東急株式会社(業務委託先(予定):株式会社セミ・チャームドライブ・アソシエイツ)
- 機能配置(予定)

【2階】

ワークショップスペース

・地域の学生や教育関係者、
商店会などの地元団体といっ
た多様な方によるセミナーや
ワークショップを想定

ブックラウンジ

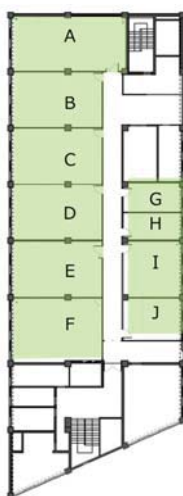
・展示棚を設け、地域活性化
に携わりたい方々の活動交流
スペースとして整備



ワークラウンジ

・フリーランス、オフィス
ワーカーなど幅広い層の利
用を想定
・他業種との交流により、
これまでにない交流を促進
・テレカンブースや会議室
を設置し、働きやすい環境
を提供

【3階】小規模オフィス10区画: 17.77㎡~68.95㎡



▲3階部分フロアマップ

	面積 (㎡)	面積 (坪)
A	68.95	20.86
B	54.30	16.43
C	54.30	16.43
D	54.30	16.43
E	54.30	16.43
F	63.03	19.07
G	19.23	5.82
H	17.77	5.38
I	35.59	10.77
J	27.24	8.24

▲3階小規模オフィス面積

※3階オフィス入居に関する問い合わせ先 アオバ住宅社(齋藤宛): 045-482-6646

h.saito@aoba-jutakusha.jp

2. 株式会社セミ・チャームドライブ・アソシエイツ概要

設 立： 2012年4月1日

所 在 地： 神奈川県横浜市青葉区恩田町1633-4

代 表 者： 代表取締役社長 新谷 佳江

事業内容:

- ・イベント企画運営進行トータルディレクション
- ・施設運営サポート
- ・地域コネクション支援
- ・音楽を中心とした人材育成、音楽ソフト企画の立案

3. 開業前ワークショップについて ※現時点のものであり、変更となる可能性があります

○第1回:「この街で働くために」

日 時：12月26日(土) 14時～17時(約3時間)

内 容：この街の働く場としての現在地の認識をすり合わせながら、どうすればこの街に仕事が溢れていくのか、この街の働く未来をグループワーク形式で深掘りしていきます。

申込 URL: www.facebook.com/semi.c.l



ファシリテーター: 金子拓也

(有)金子石油店代表取締役・NPO法人 Wave よこはま代表理事)

石油店を運営するかたわら、まちのなんでもお助け隊の組成や、飲食店の立ち上げなど、様々な視点でまちの盛り上げに尽力している。



ファシリテーター: 村野浩一 (青葉台駅前郵便局 局長)

青葉台を盛り上げる為、様々なイベント企画、人材育成・人脈形成に長く取り組んでこられている、地域の「アニキ」的存在。

○第2回:「子どもが育つまち」

日 時：1月9日(土) 14時～17時(約3時間)

内 容：将来地域のまちづくりを担う子どもたちの実情、諸問題の抽出をしながら、どうすればこの街に子どもたちが愛着を持ち、健やかに成長できるのかをグループワーク形式で深掘りしていきます。

申込 URL: www.facebook.com/semi.c.l



ファシリテーター: 竹本靖代 (NPO 法人あおば学校ネットワーク 理事長)

青葉おばけやしきプロジェクトやあおばみんなの学校プロジェクトなど、多数の青少年向けイベントを企画、実施し、子供たちに楽しく学ぶ場を提供している。

【参考】

1. 「次世代郊外まちづくり」とは

横浜市と東急が2012年4月に締結、2017年4月に更新した『「次世代郊外まちづくり」の推進に関する協定』に基づき、田園都市線沿線の住宅地を舞台に、大都市近郊の郊外住宅地が抱えているさまざまな課題を、地域住民・行政・大学・民間事業者の連携・協働によって解決していく、従来にはない住民参加型・課題解決型のプロジェクトです。

参考 URL: <http://jisedaikogai.jp/> (次世代郊外まちづくり HP)

2. これまでの「次世代郊外まちづくり」の取り組み

年月	主な取り組み
2012年 4月 6月 7月	横浜市・東急「次世代郊外まちづくり」の包括協定締結 モデル地区「たまプラーザ駅北側地区」(美しが丘1丁目・2丁目・3丁目)を選定 まちづくりへの参加を促すことを目的とした「キックオフフォーラム」開催
2012年10月 ～2013年3月	住民ワークショップ(計5回)／たまプラ大学(計8回)開催
2013年 6月 ～	「次世代郊外まちづくり基本構想2013」を策定 毎年度リーディング・プロジェクトを定め、具体的な取り組みを推進
2017年 2月	「次世代郊外まちづくり」の情報発信・活動拠点として「WISE Living Lab(ワイズ・リビング・ラボ)」の共創スペースが先行オープン。(WISE Living Labは 5 月に全面オープン)
2017年 4月	横浜市・東急「次世代郊外まちづくり」の包括協定更新
2018年10月	「コミュニティ・リビング」を具現する地域利便施設「CO-NIWAたまプラーザ」がオープン
2018年11月	「次世代郊外まちづくりシンポジウム～田園都市で暮らす、働く」開催
2019年 4月 ～	「田園都市で暮らす、働く」をテーマに、「住む」と「働く・活動する」が融合した新たなライフスタイルが実現できるまちづくりに向けて、さまざまな活動を推進。 【主な活動】 ・連続プログラム「田園都市で暮らす、働くプロジェクト」の実施 青葉区と連携し、地域住民向けの「あおばセカンドキャリア地域起業セミナー」や「プロボノ実践プログラム」など、社会活動への参加・起業を支援する各種プログラムを実施 ・リビングラボの推進 地域の課題解決や価値向上につながるサービスや商品開発等を通じて、企業と地域住民が共創するプロジェクトを実施 ・ショートタイムテレワーク実験の実施 ヨコハマ SDGs デザインセンターをはじめとした団体・企業のコラボレーションにより、「自宅や自宅付近のワーキングスペースでの短時間での遠隔勤務」という新しい働き方に関する社会実験を実施。

3. コミュニティ・リビングとは

コミュニティ・リビングとは、郊外住宅地の歩いて暮らせる生活圏の中で、暮らしの基盤となる住まいや住民の交流、医療、介護、保育や子育て支援、教育、環境、エネルギー、交通・移動、防災さらには就労といった様々なまちの機能を、密接に結合させていく考え方です。大規模なコミュニティ・リビングは、多世代かつ多様な住民が交流し、活動する地域のリビングルームであり、郊外住宅地の中の暮らしと住まいの拠点となります。

コミュニティ・リビングを実現していくことによって、自分の住まいから歩いていける距離に必要な暮らしの機能が揃うことになり、多世代の住民の暮らしや交流・活動を支えることができるようになります。また、地域住民が気軽に集まる場ができ、住民の交流や活動も活発になることが期待できます。

